

第26回関東手話通訳問題研究討論集会 分科会(2012年11月10日～11日)

分科会	テーマ	討議の柱
第1	手話通訳制度	<p>【制度の利用者側】</p> <p>「使う人にとって 守られている権利・守られていない権利」</p> <p>高松の裁判等、状況がひどい状態になっている今こそ、昨年に引き続き、この柱で昨年からの1年間地元で何が変わったのか、或いは変わらなかったのか。</p> <p>または、何が必要なのか。議論して全国に繋げていきましょう。</p>
第2	手話の収集と創造	<ul style="list-style-type: none"> ・手話表現の世代・男女間での違いについて ・収集した手話の保存方法や利用方法、また地域で収録したテープ等の保存方法や利用方法について
第3	手話通訳者の専門性と労働条件	<p>【通訳者側】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働としての手話通訳(身分保障の状況を確認) ・手話通訳者の専門性(通訳のあり方) ・コーディネートの業務と役割 ・研修会の開催 <p>→それぞれについて、参加者の方の考えを整理してみましょう</p> <p>理論の到達点(「手話通訳の理論と実践」など)と 現状について、相違があるか考えてみましょう。</p>
第4	手話講習会のあり方	手話通訳者養成での「要約の指導について」
第5	聴覚障害者の医療と手話通訳活動	<p>①医療班の必要性・啓蒙活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各支部で取り組んでいることを紹介し合い、今後の活動に生かす。 ・リーフレットやDVD等、啓蒙活動の成果を発表して頂き、他県、全国へPRする。 <p>②医療現場におけるコミュニケーション保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者の要望に対する対応や、医療関係者の取り組みを紹介。 ・各県の状況を報告頂き、地元の医療機関へのアプローチを考える。 ・聴覚障害者への医療支援の問題点と課題。 <p>③医療ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者、聴覚障害者、手話通訳者、医療班の関係作り。 ・聴覚障害者組織、医療関係団体との関係作り。 ・広域災害に対し、如何に対応すべきかを討議する。 <p>④広域災害時の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時、緊急時における取組について ・広域災害に対し、如何に対応すべきかを討議する。
第6	聴覚障害者の労働と手話通訳活動	<p>(1) 地域ろう協との労働問題の取り組みについて</p> <p>(2) 手話協力員の業務内容と範囲</p> <p>(3) 労働現場での情報保障と支援体制</p>
第7	手話サークル	<p>(1)「ろう協、行政、関連団体との連携による災害時対策状況」</p> <p>(2)サークル活動と課題(サークルの悩み)</p>

第 8	手話通訳者の健康問題	「地域の抱えている問題や参加者の課題」 ・複数登録 ・派遣元との関係 ・聴覚障害者との関係 ・通訳者同士の関係 ・身近な医療機関 「私たちの健康をどう守るのでしょうか。みんなで語り合いましょう。」 ・けいわん健診の現状 ・健康に関する学習会の取り組み状況 ・身分保障 ・仲間づくり ・手話以外の趣味を持ったり手話関係以外の友人作り ・研究強化事業から見てきたもの(埼玉から報告)
-----	------------	--